

日商簿記2級商業簿記120%完全合格自習テキスト学習計画表

編	章	タイトル (総学習時間)	学習スケジュール		学習項目 (目次項目)	豆テスト
			学習日	目標時間		
第1編	第1章	株式会社の資本 (210分)	月 日	90	1. 株式会社って何だろう～ 2. 株式会社の純資産	#01
			月 日	120	3. 会社の利益について～ 4. 会社が払う税金	
	第2章	現金と当座預金 (90分)	月 日	30	1. 現金	#02
			月 日	60	2. 当座預金	
	第3章	有価証券の処理 (90分)	月 日	30	1. 有価証券の売買	#03
			月 日	60	2. 端数利息の取扱～ 3. 有価証券の貸借	
	第4章	社債の処理 (120分)	月 日	60	1. 社債の発行について～ 2. 社債の決算整理	#04
			月 日	60	3. 社債の償還	
	第5章	有形固定資産 (120分)	月 日	30	1. 減価償却費の計上	#05
			月 日	90	2. 売却と買替の処理～ 3. その他の固定資産取引	
	第6章	その他の取引 (90分)	月 日	90	1. 割戻と割引の処理 2. 研究開発費 3. 手形に関する処理	#06
	第7章	決算整理事項 (180分)	月 日	90	1. 商品の棚卸高～ 2. 貸倒引当金の設定	#07
			月 日	90	3. その他の引当金～ 4. 期末有価証券の評価	
	第8章	財務諸表の作成 (120分)	月 日	60	1. 損益計算書～ 2. 貸借対照表	#08
			月 日	60	3. 株主資本等変動計算書	
第2編	第9章	特殊商品売買 (180分)	月 日	90	1. 委託販売と受託販売～ 2. 委託買付と受託買付	#09
			月 日	90	3. 割賦販売～ 6. 予約販売	
	第10章	帳簿組織 (240分)	月 日	120	1. 帳簿組織の概要～ 3. 仕入帳・売上帳	#10
			月 日	120	4. 受取手形・支払手形記入帳～ 5. 合計転記	
	第11章	伝票会計 (90分)	月 日	90	1. 伝票を用いての会計～ 2. 元帳への転記	#11
	第12章	本支店会計 (210分)	月 日	90	1. 支店の独立会計	#12
			月 日	120	2. 本支店会計の合併	
	第1周	個別仕訳問題 (210分)	月 日	60	1. 資本取引～ 2. 有価証券	—
			月 日	60	3. 社債～ 4. 固定資産	
			月 日	90	5. 特殊商品売買～ 6. その他の取引	
	第2周	帳簿組織 伝票会計 (120分)	月 日	90	1. 帳簿組織	—
			月 日	30	2. 伝票会計	
	第3周	精算表 本支店会計 (240分)	月 日	90	1. 精算表	—
			月 日	90	2. 本支店会計	
			月 日	60	3. 財務諸表の作成	

豆テスト #01 問題 (P.28～P.61)

問題1 下記に示す取引の仕訳を示しなさい。なお決算は年1回、3月31日とする。

- ① 平成04年9月30日までに増資を行う予定の株式払込金4,000,000円の払込が完了し、別段預金に入金済であり、会社ではこれを新株式申込証拠金勘定として処理している。本日これを資本金へ振替るが、会社法に定める最高限度額は資本金としないことにしたい。同時に別段預金を当座預金口座へ振替る旨の依頼を銀行に行った。なお増資にあたっての諸費用150,000円は現金で支払い、繰延資産として処理する。
- ② 上記の後に決算日となったため繰延資産の償却を定額法（残存価額ゼロ）として会社法に定める効果の及ぶと考えられる最長期間で償却する。

問題2 下記に示す取引の仕訳を示しなさい。

- ① 平成05年5月25日に下記に示す剰余金の処分を行った。なお繰越利益剰余金が1,650,000円あった。

利益準備金	会社法に定める額
配当金	1,000,000円
新築設立金	500,000円
- ② 上記の配当金1,000,000円を現金で支払った。
- ③ 当社は下記に示すS社を吸収合併することとし株式100株（時価@60,000円）を交付した。なお1株当たり@10,000円は資本金としない処理を行う。

S社		貸借対照表			(単位：千円)
諸	資 産	10,000	諸	負 債	4,500
			資 本 金	5,500	
		10,000		10,000	

問題3 下記に示す決算整理事項の仕訳を示しなさい。

- ① 決算に際して当期分の法人税等が1,750,000円と計算された。ただし期中において中間納付が630,000円行われている。
- ② 当社は消費税等につき税抜経理方式を採用しており、期中の仮払消費税が854,000円、仮受消費税が1,042,000円であった。
- ③ 期中の仮払金勘定の中に収入印紙代35,000円と郵便切手代40,000円が含まれていた。

豆テスト #01 解答用紙

問題 1

	借 方		貸 方	
	勘 定 科 目	金 額	勘 定 科 目	金 額
1				
2				

問題 2

	借 方		貸 方	
	勘 定 科 目	金 額	勘 定 科 目	金 額
1				
2				
3				

問題 3

	借 方		貸 方	
	勘 定 科 目	金 額	勘 定 科 目	金 額
1				
2				
3				

豆テスト #01 解答・解説

問題1

① (新株式申込証拠金)	4,000,000	(資本金)	2,000,000
		(株式払込剰余金)	2,000,000
(当座預金)	4,000,000	(別段預金)	4,000,000
(株式交付費)	150,000	(現金)	150,000
② (株式交付費償却)	25,000	(株式交付費)	25,000

解説

- ① 株主から払込が行われた4,000,000円は、すでに下記の処理が完了している。今回は、これをそれぞれの科目に振替るものとする。

(別段預金) 4,000,000 (新株式申込証拠金) 4,000,000

- ② 株式交付費は3年間で月割計算による償却を行う。

$$\text{当期償却額} : 150,000 \text{円} \times \frac{1 \text{年}}{3 \text{年}} \times \frac{6 \text{カ月}}{12 \text{カ月}} (\text{H04.10.1} \sim \text{05.3.31}) = 25,000 \text{円}$$

問題2

① (繰越利益剰余金)	1,600,000	(利益準備金)	100,000
		(未払配当金)	1,000,000
		(新築積立金)	500,000
② (未払配当金)	1,000,000	(現金)	1,000,000
③ (諸資産)	10,000,000	(諸負債)	4,500,000
(のれん)	500,000	(資本金)	5,000,000
		(合併差益)	1,000,000

解説

- ① 利益準備金の積立は配当額の1/10を基本とする。なお繰越利益剰余金の残額50,000円は貸方にそのまま計上しておけば良い。
- ② のれんと合併差益は下記の金額になる。

S社 貸借対照表

合併前資本金 5,500,000 円	資本金 @50,000 円 × 100 株
のれん 500,000 円	合併差益 @10,000 円 × 100 株

株式時価 @60,000 円 × 100 株

問題3

① (法人税等)	1,750,000	(未払法人税等)	1,120,000
		(仮払法人税等)	630,000
② (仮受消費税)	1,042,000	(未払消費税)	188,000
		(仮払消費税)	854,000
③ (租税公課)	35,000	(仮払金)	75,000
(通信費)	40,000		

解説

- ① 中間納付額を控除した金額を未払法人税等に計上する。
- ② 仮受、仮払消費税を相殺した差額が未払消費税になる。
- ③ 印紙代と切手代を明確に区別しておくこと。

豆テスト #02 問題 (P.62～P.71)

問題 1 当期末における現金に関する各設問に答えなさい。

設問 1 当社の決算日における金庫の中の現金および証券類は下記に示す通りであった。現金の実際有高として考えられる金額を答えなさい。

(金庫中保管物)

1. 他社発行商品券	140,000 円	2. 自社振出小切手	25,000 円
3. 通貨	87,500 円	4. 郵便切手	41,000 円
5. 他社振出小切手	94,000 円	6. 送金小切手	30,000 円
7. 配当金領収証	20,000 円	8. 自社振出の約束手形	57,000 円
9. 未渡小切手	50,000 円	10. 期限到来済利札	10,000 円

設問 2 上記 8. の自社振出の約束手形 57,000 円は買掛金の回収として受け入れ、借方受取手形勘定として処理している。また 9. の未渡小切手 50,000 円は修繕費支払いとして振出したものである。決算における修正仕訳を示しなさい。

設問 3 現金勘定の残高は 258,000 円であり、期中 6,500 円の交際費支払いの計上洩れがあることが判明しているが、残額は原因が不明である。上記も考慮して決算における修正仕訳を示しなさい。

問題 2 当社の決算日における当座預金勘定の残高は 226,000 円であり、銀行の残高証明書の金額は 282,000 円であった。不一致原因は下記によるものとして、解答用紙に示す銀行勘定調整表（企業残高基準法）を作成しなさい。

(不一致原因)

1. 銀行から引落された水道代 27,000 円が未通知であった。
2. 仕入先 P 社に振出した小切手 31,000 円が未取付である。
3. 銀行の時間外預入れ 42,000 円がある。
4. 支払手形の期日引落 50,000 円が未通知であった。
5. 広告宣伝費として振出した小切手 64,000 円が未渡しである。
6. 得意先 N 社からの振込 80,000 円があったが内訳が不明であり未処理である。

豆テスト #02 解答用紙

問題 1

設問 1 現金の実際有高（ ）円

設問 2

借 方		貸 方	
勘 定 科 目	金 額	勘 定 科 目	金 額

設問 3

借 方		貸 方	
勘 定 科 目	金 額	勘 定 科 目	金 額

問題 2

銀行勘定調整表			
平成○年 3 月 31 日			
I	会社当座預金残高		226,000
II	加 算 欄		
	() ()		
	() ()		
	() ()		
	小 計	()	
III	減 算 欄		
	() ()		
	() ()		
	() ()	()	
IV	銀行当座預金残高	()	

豆テスト #02 解答・解説

問題 1

設問 1

現金実際有高 241,500円

設問 2

(支払手形)	57,000	(受取手形)	57,000
(当座預金)	50,000	(未払金)	50,000

設問 3

(交際費)	6,500	(現金)	16,500
(雑損)	10,000		

解説

設問 1

	通貨	他社振出小切手	送金小切手	配当金領収証	期限到未済利札					
現金の実際有高：	87,500円	+	94,000円	+	30,000円	+	20,000円	+	10,000円	= 241,500円

設問 3

現金の帳簿残高と実際有高の差額は16,500円である。差額の内不明な金額は雑損とする。

現金残高の差額：258,000円 - 241,500円 = 16,500円

問題 2

銀行勘定調整表			
平成〇年 3月31日			
I	会社当座預金残高		226,000
II	加算欄		
	②未取付小切手	31,000	
	⑤未渡小切手	64,000	
	⑥仮受金振込	80,000	175,000
	小計		401,000
III	減算欄		
	①水道代引落未通知	27,000	
	③時間外預入	42,000	
	④支払手形期日引落	50,000	119,000
IV	銀行当座預金残高		282,000

解説

会社と銀行との当座預金残高の不一致の原因は、下記によるものである。

(不一致原因)**1. 当座預金引落未通知**

(水道光熱費) 27,000 (当座預金) 27,000

2. 未取付小切手

会社では、処理が完了しているので修正仕訳は不要である。

3. 時間外預入

会社では、銀行預入の処理が完了しているので修正仕訳は不要である。

4. 約束手形の引落未通知

(支払手形) 50,000 (当座預金) 50,000

5. 未渡小切手

費用支払いのための未渡小切手であるため貸方は未払金として処理する。

(当座預金) 64,000 (未払金) 64,000

6. 仮受金振込入金

入金額の内訳が不明であるため仮受金として処理する。

(当座預金) 80,000 (仮受金) 80,000

●参考●

会社側		当座預金		(単位：千円)		銀行側		当座口座		(単位：千円)		
	決算日残高	226	1	引落未通知	27		決算日残高	282	2	未取付小切手	31	
5	未渡小切手	64	4	〃	50	3	時間外預入	42				
6	仮受金入金	80										
				残	高	293	一致			残	高	293

豆テスト #03 問題 (P.72～P.83)

問題1 下記に示す取引の仕訳を示しなさい。

- ① 当社は従来から保有する売買目的のA社株式（@530円×1,000株）を追加でさらに1,000株購入することとし、本日の時価@540円に証券会社に対する手数料10,000円を加算した金額の小切手を振出した。当社では有価証券の記帳は平均法によっている。
- ② 上記1. のA社株式を@570円で1,500株売却することとし、証券会社に対する手数料15,000円を控除した代金は後日受取ることとした。

問題2 下記に示す取引の仕訳を示しなさい。

- ① 当社は売買目的でB社発行の社債1,000口を1口当たり@100円につき@97円（裸相場）で平成04年8月7日に購入し、端数利息と合計した金額の小切手を振出した。なおこのB社の社債は年利率7.3%であり、利払日が毎年6月末日、12月末日の年2回である。
- ② 上記B社社債を平成04年11月25日に500口、1口当たり@97.5円（裸相場）で売却し、端数利息とともに現金を受取った。

問題3 下記に示す取引の仕訳を示しなさい。

- ① 当社は取引先の甲社に売買目的で保有するC社株式500株（帳簿価額@2,000円）を貸付けている。この貸付けているC社株式の時価が決算において@1,950円に下落していた。
- ② 当社は仕入先である乙社から借入れていたD社株式1,000株を本日@230円で売却し、代金を現金で受取っている。当社は乙社との間でこのD社株式の売却についての承認契約を行っている。

豆テスト #03 解答用紙

問題 1

	借 方		貸 方	
	勘 定 科 目	金 額	勘 定 科 目	金 額
1				
2				

問題 2

	借 方		貸 方	
	勘 定 科 目	金 額	勘 定 科 目	金 額
1				
2				

問題 3

	借 方		貸 方	
	勘 定 科 目	金 額	勘 定 科 目	金 額
1				
2				

豆テスト #03 解答・解説

問題1

① (売買目的有価証券)	550,000	(当座預金)	550,000
② (未収金)	840,000	(売買目的有価証券)	810,000
(支払手数料)	15,000	(有価証券売却益)	45,000

解説

- ① 有価証券の取得原価には支払手数料を加算する。

取得原価：@540円 × 1,000株 + 10,000円 = 550,000円

帳簿価額（平均法）：
$$\frac{@530円 \times 1,000株 + @540円 \times 1,000株 + 10,000円}{1,000株 + 1,000株} = @540円$$

- ② 各金額の内訳は下記の通りである。

売買目的有価証券：@540円 × 1,500株 = 810,000円

有価証券売却益：(@570円 - @540円) × 1,500株 = 45,000円

未収金（手取額）：@570円 × 1,500株 - 15,000円 = 840,000円

問題2

1 (売買目的有価証券)	97,000	(当座預金)	97,760
(有価証券利息)	760		
2 (現金)	50,230	(売買目的有価証券)	48,500
		(有価証券売却益)	250
		(有価証券利息)	1,480

解説

- ① 有価証券利息は7月1日から8月7日までの38日分とする。

有価証券利息：@100円 × 1,000口 × 7.3% × $\frac{38日}{365日}$ = 760円

- ② 有価証券利息は購入時に38日分を支払っているため売却時には7月1日から11月25日までの148日分を受取ることになる。

売買目的有価証券：97,000円 × $\frac{500口}{1,000口}$ = 48,500円

有価証券利息：@100円 × 500口 × 7.3% × $\frac{148日}{365日}$ = 1,480円

有価証券売却益：(@97.5円 - @97円) × 500口 = 250円

問題3

① (有価証券評価損)	25,000	(売買目的有価証券)	25,000
② (現金)	230,000	(売却借入有価証券)	230,000

解説

- ① 貸付時には仕訳は発生しないが、期末における時価下落分は評価損を計上する。

有価証券評価損：(@2,000円 - @1,950円) × 500株 = 25,000円

- ② 借入時には仕訳は発生しないが、売却時には解答の仕訳が必要である。

豆テスト #04 問題 (P.84～P.94)

問題1 下記に示す取引の仕訳を示しなさい。なお決算は年1回3月31日とする。

- ① 当社は、平成02年7月1日に社債5,000,000円を1口当たり@95円で50,000口発行し払込金を当座預金口座に受け入れた。この社債は償還期日が平成07年6月30日であり、利率年2%毎年12月末日と6月末日が利払日である。
- ② 上記の社債発行に際して諸費用200,000円が発生し小切手を振出しているが、この支出を繰延資産として取り扱いたい。
- ③ 平成02年12月31日となったので、第1回目の社債利息を小切手を振出して行った。

問題2 上記社債について平成04年3月31日の決算整理仕訳を示しなさい。

- ① 社債の発行価額と額面金額の差額調整に関する処理
- ② 繰延資産の償却に関する処理
- ③ 社債利息に関する修正の処理

問題3 上記 **問題1** の社債が下記の条件により買入償還された。買入償還時の処理を示しなさい。

(買入償還)

平成05年9月30日において上記(問題1)社債2,000,000円(20,000口)を1口当たり@100円について@98.3円(裸相場)で買入償還した。この買入償還した社債20,000口分の利息と合計した金額の小切手を振出した。

問題4 上記 **問題3** を前提にして平成06年3月31日の決算整理仕訳を示しなさい。

豆テスト # 04 解答用紙

問題 1

	借 方		貸 方	
	勘 定 科 目	金 額	勘 定 科 目	金 額
1				
2				
3				

問題 2

	借 方		貸 方	
	勘 定 科 目	金 額	勘 定 科 目	金 額
1				
2				
3				

問題 3

借 方		貸 方	
勘 定 科 目	金 額	勘 定 科 目	金 額

問題 4

借 方		貸 方	
勘 定 科 目	金 額	勘 定 科 目	金 額

豆テスト #04 解答・解説

問題1

① (当座預金)	4,750,000	(社債)	4,750,000
② (社債発行費等)	200,000	(当座預金)	200,000
③ (社債利息)	50,000	(当座預金)	50,000

解説

- ① 社債勘定：@95円 × 50,000口 = 4,750,000円
- ③ 社債利息：@100円 × 50,000口 × 2% × $\frac{6 \text{ カ月}}{12 \text{ カ月}}$ (H02.7.1 ~ 02.12.31) = 50,000円

問題2

① (社債利息)	50,000	(社債)	50,000
② (社債発行費等償却)	40,000	(社債発行費等)	40,000
③ (社債利息)	25,000	(未払社債利息)	25,000

解説

決算日が平成03年3月末ではなく平成04年3月末であることに注意すること。

- ① 社債利息（調整分）：(5,000,000円 - 4,750,000円) ÷ 5年 = 50,000円
- ② 社債発行費等償却：200,000円 ÷ 5年 = 40,000円
- ③ 未払社債利息：5,000,000円 × 2% × $\frac{3 \text{ カ月}}{12 \text{ カ月}}$ (H04.1.1 ~ 3.31) = 25,000円

問題3

(社債利息)	10,000	(社債)	10,000
(社債)	1,965,000	(当座預金)	1,976,000
(社債利息)	10,000		
(社債償還損)	1,000		

解説

社債利息（調整分）：(@100円 - @95円) × 20,000口 × $\frac{6 \text{ カ月}}{60 \text{ カ月}}$ (05.4.1 ~ 9.30) = 10,000円

社債：{@95円 + (@100円 - @95円) × $\frac{39 \text{ カ月}}{60 \text{ カ月}}$ (02.7.1 ~ 05.9.30)} × 20,000口 = 1,965,000円

社債償還損：[@98.3円 - {@95円 + (@100円 - @95円) × $\frac{39 \text{ カ月}}{60 \text{ カ月}}$ (02.7.1 ~ 05.9.30)}] × 20,000口 = 1,000円

社債利息（支払分）：@100円 × 20,000口 × 2% × $\frac{3 \text{ カ月}}{12 \text{ カ月}}$ (05.7.1 ~ 9.30) = 10,000円

問題4

(社債利息)	30,000	(社債)	30,000
(社債発行費等償却)	40,000	(社債発行費等)	40,000
(社債利息)	15,000	(未払社債利息)	15,000

解説

$$\text{社債利息（調整分）：}(5,000,000\text{円} - 4,750,000\text{円}) \div 5\text{年} \times \frac{30,000\text{口}}{50,000\text{口}} = 30,000\text{円}$$

$$\text{社債発行費等償却：}200,000\text{円} \div 5\text{年} = 40,000\text{円}$$

$$\text{未払社債利息：}(5,000,000\text{円} - 2,000,000\text{円}) \times 2\% \times \frac{3\text{カ月}}{12\text{カ月}} (\text{H06.1.1} \sim 3.31) = 15,000\text{円}$$

豆テスト #05 問題 (P.95～P.105)

問題1

下記に示す資料により当期分の減価償却費を計上する決算整理仕訳を示しなさい。なお決算は年1回、3月31日とする。

残高試算表

平成07年3月31日

備品	2,000,000	備品減価償却累計額	875,000
車両運搬具	1,500,000	車両運搬具減価償却累計額	810,000
建物	?	建物減価償却累計額	450,000

(資料)

1. 備品は耐用年数8年（償却率年25%）として定率法の減価償却を行っている。
2. 車両運搬具は生産高比例法により見積総走行距離100,000km、当期走行距離30,000kmとして減価償却を行う。
3. 建物は平成02年4月1日に取得し、同日から事業の用に供している。減価償却は定額法（耐用年数40年）により計上している。
4. 残存価額は取得原価の10%とする。

問題2

当期中の平成09年7月31日において車両の買替を行っている。買替時の処理を示しなさい。なお決算は年1回、3月31日とする。

(資料)

1. 下取車両は取得原価3,000,000円（期首減価償却累計額1,575,000円）であり、定額法（耐用年数6年、残存価額10%）により減価償却を行っていた。この車両の下取価額は1,000,000円であった。
2. 新車両は4,000,000円であり下取価額を控除した残額のうち500,000円は小切手を振出し、残額は5年間の分割によるローン払いとした。

問題3

下記に示す取引の仕訳を示しなさい。

- ① 支店社屋の新築を請負わせていたN建築より建物が完成しその引渡を受けた。この建物は請負金額20,000,000円であり、すでに着手金として4,000,000円の支払いが完了しており、残額については当座預金口座より振込を行った。
- ② 不具合の発生した備品につき修繕を行い180,000円を現金で支払った。この金額のうち100,000円は備品の耐用年数を延長させる支出となった。

豆テスト # 05 解答用紙

問題 1

借 方		貸 方	
勘 定 科 目	金 額	勘 定 科 目	金 額

問題 2

借 方		貸 方	
勘 定 科 目	金 額	勘 定 科 目	金 額

問題 3

	借 方		貸 方	
	勘 定 科 目	金 額	勘 定 科 目	金 額
1				
2				

豆テスト #05 解答・解説

問題1

(減価償却費)	798,750	(備品減価償却累計額)	281,250
		(車両運搬具減価償却累計額)	405,000
		(建物減価償却累計額)	112,500

解説

備品：(2,000,000円 - 875,000円) × 0.25 = 281,250円

車両：1,500,000円 × 0.9 × $\frac{30,000\text{km}}{100,000\text{km}}$ = 405,000円

建物：5,000,000円※ × 0.9 × $\frac{1\text{年}}{40\text{年}}$ = 112,500円

※取得原価

(?) × 0.9 × $\frac{4\text{年}}{40\text{年}}$ (02.4.1 ~ 06.3.31) = 450,000円

↓
5,000,000円

問題2

(車両運搬具)	4,000,000	(車両運搬具)	3,000,000
(車両運搬具減価償却累計額)	1,575,000	(当座預金)	500,000
(減価償却費)	150,000	(未払金)	2,500,000
(車両運搬具売却損)	275,000		

解説

減価償却費：3,000,000円 × 0.9 × $\frac{1\text{年}}{6\text{年}} \times \frac{4\text{ヵ月}}{12\text{ヵ月}}$ (H09.4.1 ~ 7.31) = 150,000円

車両運搬具売却損：(3,000,000円 - 1,575,000円 - 150,000円) - 1,000,000円 = 275,000円

新車両 下取金額 小切手振出
未払金：4,000,000円 - 1,000,000円 - 500,000円 = 2,500,000円

問題3

① (建物)	20,000,000	(当座預金)	16,000,000
		(建設仮勘定)	4,000,000
② (備品)	100,000	(現金)	180,000
(修繕費)	80,000		

解説

- ① 着手金として支払った金額は建設仮勘定により処理されている。
- ② 耐用年数延長部分は、資本的支出として備品勘定に計上する。

豆テスト #06 問題 (P.106～P.114)

問題1 下記に示す取引はどのような取引が発生しているか適切な名称を語群の中から選択しなさい。

- ① 商品の売上高が一定期間内に一定額あるいは一定量を超えた場合にその代金の一部を控除する契約を前提にした売上代金の控除取引
- ② 販売した商品の一部に欠陥等が発生し、交換等にはおよばないが相方の合意により売上代金の一部を控除する取引
- ③ 売上代金を契約による回収期日より早期に回収することができたことによる代金の控除で会計上は営業外収益として取扱われるもの

《語群》

- A. 売上返品 B. 売上値引 C. 売上割引 D. 売上割戻

問題2 下記に示す取引の仕訳を示しなさい。

- ① 保有するA社振出の約束手形200,000円を銀行で割引き割引料4,000円を差引かれた残額を当座預金に預け入れた。なお手形金額の1%を保証債務として計上する。
- ② 仕入先甲社に裏書譲渡したB社振出の約束手形180,000円が不渡となり甲社から代金の請求を受け同額の小切手を振出した。なおこの手形の裏書時に手形金額の1%を保証債務として計上している。
- ③ 上記のB社は倒産し不渡手形180,000円の回収は困難となった。この不渡手形に同額の貸倒引当金が設定されている。
- ④ 本日備品570,000円を購入し、小切手を振出した。この備品のうち270,000円は研究所で新製品開発のためにもっぱら使用されるものである。

豆テスト #06 解答用紙

問題1

1		2		3	
---	--	---	--	---	--

問題2

	借 方		貸 方	
	勘 定 科 目	金 額	勘 定 科 目	金 額
1				
2				
3				
4				

豆テスト #06 解答・解説

問題1

- ① - D ② - B ③ - C

解説

- ① 一定期間の一定額（量）以上の取引による代金控除は割戻しである。
 ② 商品の欠陥等を理由する場合は値引と考えること。
 ③ 掛代金の早期決済による代金の控除は割引である。

問題2

① (当座預金)	196,000	(受取手形)	200,000
(手形売却損)	4,000		
(保証債務費用)	2,000	(保証債務)	2,000
② (不渡手形)	180,000	(当座預金)	180,000
(保証債務)	1,800	(保証債務取崩益)	1,800
③ (貸倒引当金)	180,000	(不渡手形)	180,000
④ (備品)	300,000	(当座預金)	570,000
(研究開発費)	270,000		

解説

- ① 保証債務：200,000円 × 1% = 2,000円
 ② 不渡手形180,000円を計上して保証債務の取崩しを行うこと。
 ③ 回収不能として貸倒引当金を計上する。
 ④ 研究開発専用の備品は、固定資産勘定には計上しない。

豆テスト #07 問題 (P.115～P.134)

問題1 下記に示す資料を参考にして商品売買に関する決算整理仕訳を示しなさい。

残高試算表

平成03年3月31日

繰越商品	175,000	売上	3,980,000
仕入	2,474,000		

(資料)

1. 期末商品の棚卸高は次の通りである。
帳簿棚卸高：1,000個 @200円
実地棚卸高：900個 @190円（評価額）
2. 商品の減耗等は独立科目で処理し、仕入勘定へ振替えて売上原価としないこと。

問題2 下記に示す資料を参考にして決算整理仕訳を示しなさい。

残高試算表

平成04年3月31日

受取手形	527,000	貸倒引当金	28,500
売掛金	673,000	修繕引当金	60,000
満期保有目的債券	975,000		
修繕費	187,000		

(資料)

1. 受取手形と売掛金の期末残高について2%の貸倒引当金を差額補充法により設定する。
2. 満期保有目的債券は、当期中平成03年10月1日にA社発行の社債10,000口を券面@100円につき@97.5円で購入したものである。このA社社債は平成08年9月30日を満期日とし、利払日が年1回9月30日、利率年2%によるものである。額面金額と取得原価の差額は金利調整であるため、決算において償却原価法（定額法）の処理を行うこと。
3. 期中において行った修繕のうち60,000円は、前期末に修繕引当金が計上されていたものである。また当期末において75,000円の修繕引当金を計上する。
4. 当期は平成03年4月1日から平成04年3月31日までの1年である。

豆テスト #07 解答用紙

問題 1

借 方		貸 方	
勘 定 科 目	金 額	勘 定 科 目	金 額

問題 2

	借 方		貸 方	
	勘 定 科 目	金 額	勘 定 科 目	金 額
1				
2				
3				

豆テスト #07 解答・解説

問題 1

(仕 入)	175,000	(繰 越 商 品)	175,000
(繰 越 商 品)	200,000	(仕 入)	200,000
(棚 卸 減 耗 費)	20,000	(繰 越 商 品)	29,000
(商 品 評 価 損)	9,000		

解説

減耗等は下記の通り計算することができる。

原価@200円

時価@190円

商品評価損	棚 減 卸 耗 費
貸借対照表価額 171,000円	

実地棚卸 帳簿棚卸
900個 1,000個

棚卸減耗費：

$$(1,000\text{個} - 900\text{個}) \times @200\text{円} = 20,000\text{円}$$

商品評価損：

$$(@200\text{円} - @190\text{円}) \times 900\text{個} = 9,000\text{円}$$

問題 2

① (貸 倒 引 当 金)	4,500	(貸倒引当金戻入)	4,500
② (満期保有目的債券)	2,500	(有価証券利息)	12,500
(未 収 利 息)	10,000		
③ (修 繕 引 当 金)	60,000	(修 繕 費)	60,000
(修繕引当金繰入)	75,000	(修 繕 引 当 金)	75,000

解説

① 貸倒引当金戻入：28,500円 - (527,000円 + 673,000円) × 2% = 4,500円

② 有価証券利息の内訳

$$\text{償却原価法：} (@100\text{円} - @97.5\text{円}) \times 10,000\text{口} \times \frac{6\text{ヵ月 (H03.10.1} \sim \text{04.3.31)}}{60\text{ヵ月 (H03.10.1} \sim \text{08.9.30)}} = 2,500\text{円}$$

$$\text{未収利息：} @100\text{円} \times 10,000\text{口} \times 2\% \times \frac{6\text{ヵ月}}{12\text{ヵ月}} (\text{H03.10.1} \sim \text{04.3.31}) = 10,000\text{円}$$

豆テスト #08 問題 (P.135～P.145)

問題

下記に示す貸借対照表の()の中に適当な語句及び金額を入れなさい。

貸 借 対 照 表

〇〇株式会社

平成〇年3月31日

(単位：千円)

《資 産 の 部》		《負 債 の 部》	
I (①)		I (⑫)	
1. (②)	52,500	1. (⑬)	10,800
2. 受 取 手 形	8,400	2. 買 掛 金	24,000
貸倒引当金	150 (①a)	3. 短 期 借 入 金	12,750
3. 売 掛 金	46,500	4. 未 払 金	1,800
貸倒引当金	840 (①b)	5. 未 払 費 用	1,200
4. 有 価 証 券	15,600	6. 賞 与 引 当 金	1,020
5. 商 品	6,990	7. (⑭) 法人税等	(①i)
6. 短 期 貸 付 金	7,500	流動負債合計	(①j)
7. 未 収 収 益	225	II (⑮)	
(③)	(①c)	1. 社 債	52,500
II (④)		2. 長 期 借 入 金	12,030
(1) (⑤)		3. 退職給付引当金	3,900
1. 建 物	81,000	(⑯)	(①k)
減価償却累計額	14,250 (①d)	負債合計	121,500
2. 備 品	27,000	《純 資 産 の 部》	
減価償却累計額	9,300 (①e)	株 主 資 本	
3. 土 地	(①f)	I (⑰)	106,500
(⑥)	103,950	II (⑱)	
(2) (⑦)		1. (⑲)	6,300
1. の れ ん	750	2. その他資本剰余金	12,000
無形固定資産合計	750	資本剰余金合計	18,300
(3) (⑧)		III (⑳)	
1. 投資有価証券	12,000	1. 利 益 準 備 金	1,200
2. 長期前払費用	1,200	2. その他利益剰余金	
投資その他の資産合計	13,200	(1) 任 意 積 立 金	3,150
固定資産合計	(①g)	(2) 繰越利益剰余金	6,000
III (⑨)		利益剰余金合計	10,350
1. 株 式 交 付 費	300	純 資 産 合 計	(①)
2. 社債発行費等	225		
3. 開 発 費	1,500		
(⑩)	(①h)		
(⑪)	256,650	(㉑)	(①m)

豆テスト #08 解答用紙

語句の解答欄

資産の部	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	

負債・純資産の部	
12	
13	
14	
15	
16	
17	
18	
19	
20	
21	

金額の解答欄

資産の部	
a	
b	
c	
d	
e	
f	
g	
h	

負債・純資産の部	
i	
j	
k	
l	
m	

豆テスト #08 解答・解説

語句の解答

資産の部		負債・純資産の部	
1	流動資産	12	流動負債
2	現金預金	13	支払手形
3	流動資産合計	14	未払
4	固定資産	15	固定負債
5	有形固定資産	16	固定負債合計
6	有形固定資産合計	17	資本金
7	無形固定資産	18	資本剰余金
8	投資その他の資産	19	資本準備金
9	繰延資産	20	利益剰余金
10	繰延資産合計	21	負債・純資産合計
11	資産合計		

金額の解答

資産の部		負債・純資産の部	
a	8,250	i	1,500
b	45,660	j	53,070
c	136,725	k	68,430
d	66,750	l	135,150
e	17,700	m	256,650
f	19,500		
g	117,900		
h	2,025		

豆テスト #09 問題

(P.146～P.177)

問題1 下記に示す取引の仕訳を示しなさい。

- ① 委託販売のために商品250,000円を委託先に積送し、発送費5,000円（積送諸掛費勘定）を現金で支払った。この商品発送と同時に荷為替手形200,000円を取組（前受金勘定）み、3,000円の割引料を控除した残額を当座預金に預け入れた。
- ② 委託先より下記の売上計算書が送付されてきた。ただし送金は後日とのことである。また総売上高の金額により収益を計上すること。

売上計算書				(単位：円)
I	総売上高			400,000
II	諸掛費			
	引取引	20,000		
	手数料	60,000	80,000	
	差引		320,000	
III	荷為替取組高		200,000	
IV	差引送金額		120,000	

問題2 下記に示す取引の仕訳を示しなさい。

- ① 割賦販売した商品の第5回目の割賦代金20,000円を現金で回収した。当社では割賦販売を回収基準を基礎にして対照勘定を用いる処理を行っている。
- ② 試用販売を行っている得意先から先月末に発送した商品500,000円（原価400,000円）の買取意思表示の連絡を受けた。当社では試用品を得意先に発送する際には仕入勘定から試用品勘定へその原価を振替えて、買取意思表示のあった時には試用品売上を計上するとともに、その原価を試用品勘定から仕入勘定へ振替る処理を行っている。

問題3 下記に示す取引の仕訳を示しなさい。

- ① 本日、貸物代表証券100,000円を150,000円で売却することができ代金は後日回収することとした。販売時にこの未着品の原価を仕入勘定へ振替る。
- ② 年間購読契約をしている月刊誌160,000円相当を本日発送した。この発送分に係る年間購読料はすでに受取済である。

豆テスト #09 解答用紙

問題1

	借 方		貸 方	
	勘 定 科 目	金 額	勘 定 科 目	金 額
1				
2				

問題2

	借 方		貸 方	
	勘 定 科 目	金 額	勘 定 科 目	金 額
1				
2				

問題3

	借 方		貸 方	
	勘 定 科 目	金 額	勘 定 科 目	金 額
1				
2				

豆テスト #09 解答・解説

問題1

① (積 送 品)	250,000	(仕 入)	250,000
(積 送 諸 掛 費)	5,000	(現 金)	5,000
(当 座 預 金)	197,000	(前 受 金)	200,000
(手 形 売 却 損)	3,000		
② (積 送 売 掛 金)	120,000	(積 送 品 売 上)	400,000
(前 受 金)	200,000		
(積 送 諸 掛 費)	80,000		

解説

積送品の発送費を積送品原価に加算する方法や荷為替取組分を委託販売勘定で処理する方法もあるので確認しておくこと。

問題2

① (現 金)	20,000	(割 賦 売 上)	20,000
(割 賦 仮 売 上)	20,000	(割 賦 未 収 金)	20,000
② (売 掛 金)	500,000	(試 用 品 売 上)	500,000
(仕 入)	400,000	(試 用 品)	400,000

解説

割賦販売については、販売基準による収益計上の方法について、また試用販売は対照勘定法の処理方法もある。いずれの考え方も理解しておくこと。

問題3

① (売 掛 金)	150,000	(未 着 品 売 上)	150,000
(仕 入)	100,000	(未 着 品)	100,000
② (前 受 金)	160,000	(予 約 売 上)	160,000

解説

未着品の仕入勘定への振替は、振替の指示があるので振替処理すると考えること。(上記問題2. ②も同様)なお予約販売は年間購読料がすでに前受金勘定に計上されていることを前提とする。

豆テスト #10 問題 (P.178～P.219)

問題

下記に示す3冊の特殊仕訳帳の記入を前提にし、解答用紙の総勘定元帳の関連する勘定口座へ転記し、同時に補助元帳の記入を示しなさい。

(資料)

現金出納帳

日付	摘要	元丁	売掛金	諸口	日付	摘要	元丁	買掛金	諸口
9 10	受取手数料	()		1,600	9 5	通信費	()		600
20	山口商会	()	5,200		11	秋田物産	()	2,400	
27	売上	()		5,000	25	仕入	()		1,600
30	売掛金	()	5,200	5,200	30	買掛金	()	2,400	2,400
〃	現金	()		11,800	〃	現金	()		4,600
〃	前月繰越	√		600	〃	次月繰越	√		7,800
				12,400					12,400

仕入帳

日付	摘要	元丁	買掛金	諸口
9 4	秋田物産	()	2,000	
7	秋田物産	()	△ 200	
25	現金	()		1,600
26	支払手形	()		1,800
30	買掛金	()	2,000	2,000
〃	当月総仕入高	()		5,400
〃	当月値引返品高	()		△ 200
〃	当月純仕入高	√		5,200

売上帳

日付	摘要	元丁	売掛金	諸口
9 6	受取手形	()		3,000
8	山口商会	()	4,000	
15	山口商会	()	△ 600	
27	現金	()		5,000
30	売掛金	()	4,000	4,000
〃	当月総売上高	()		12,000
〃	当月値引返品高	()		△ 600
〃	当月純売上高	√		11,400

豆テスト #10 解答用紙

総勘定元帳

現 金		1	支払手形		16
9/ 1 前月繰越	600	9/30 現金出納帳 ()		9/26 仕入帳 ()	
30 現金出納帳 ()					
受取手形		2	買掛金		17
9/ 6 売上帳 ()		9/30 現金出納帳 ()	9/ 1 前月繰越	2,400	
		30 仕入帳 ()	30 仕入帳 ()		
売掛金		3			
9/ 1 前月繰越	5,200	9/30 現金出納帳 ()			
30 売上帳 ()		30 売上帳 ()			
仕 入		28	売 上		26
9/30 仕入帳 ()	9/30 仕入帳 ()		9/30 売上帳 ()	9/30 売上帳 ()	
通 信 費		35	受取手数料		27
9/ 5 現金出納帳 ()			9/10 現金出納帳 ()		

補助元帳

〈売掛金元帳〉		1	〈買掛金元帳〉		1
山口商会			秋田物産		
9/ 1 前月繰越	5,200	9/15 売上帳 ()	9/ 7 仕入帳 ()	9/ 1 前月繰越	2,400
8 売上帳 ()		20 現金出納帳 ()	11 現金出納帳 ()	4 仕入帳 ()	

豆テスト #10 解答・解説

総勘定元帳

現 金		1	支払手形		16
9/ 1 前月繰越	600	9/30 現金出納帳 (4,600)		9/26 仕入帳 (1,800)	
30 現金出納帳 (11,800)					
受取手形		2	買掛金		17
9/ 6 売上帳 (3,000)		9/30 現金出納帳 (2,400)	9/ 1 前月繰越	2,400	
		30 仕入帳 (200)	30 仕入帳 (2,000)		
売掛金		3			
9/ 1 前月繰越	5,200	9/30 現金出納帳 (5,200)			
30 売上帳 (4,000)		30 売上帳 (600)			
仕 入		28	売 上		26
9/30 仕入帳 (5,400)	9/30 仕入帳 (200)		9/30 売上帳 (600)	9/30 売上帳 (12,000)	
通 信 費		35	受取手数料		27
9/ 5 現金出納帳 (600)			9/10 現金出納帳 (1,600)		

補助元帳

〈売掛金元帳〉				〈買掛金元帳〉				
山口商会		1		秋田物産		1		
9/ 1	前月繰越	5,200	9/15 売 上 帳 (600)	9/ 7	仕 入 帳 (200)	9/ 1	前月繰越	2,400
8	売 上 帳 (4,000)		20 現金出納帳 (5,200)	11	現金出納帳 (2,400)	4	仕 入 帳 (2,000)	

解説

各特殊仕訳帳の元丁欄の記入を考えると次のようになります。

- 9月4日 仕入帳の特設欄である買掛金欄に記入するため「✓」、同時に買掛金元帳（秋田物産）に記入するので「仕1」と記入します。
- 5日 現金出納帳、諸口欄に記入し、通信費勘定に個別転記するため「35」と記入します。
- 6日 売上帳の諸口欄に記入し、受取手形勘定に個別転記するため「2」と記入します。
- 7日 4日の記入と同様の記入のため「✓ / 仕1」と朱記します。
- 8日 売上帳の特設欄である売掛金欄に記入するため「✓」、同時に売掛金元帳（山口商会）に記入するので「得1」と記入します。
- 10日 現金出納帳の諸口欄に記入し、受取手数料勘定に個別転記するため「27」と記入します。
- 11日 現金出納帳、特設欄の買掛金に記入するため「✓」、ただしこの買掛金の減少を買掛金元帳（秋田物産）の借方に記入するため「仕1」と記入します。
- 15日 8日の記入と同様の記入のため「✓ / 得1」と朱記します。
- 20日 現金出納帳、特設欄の売掛金に記入するため「✓」、ただしこの売掛金の減少を売掛金元帳（山口商会）の貸方に記入するため「得1」と記入します。
- 25日 仕入帳と現金出納帳の諸口欄に記入されますが二重仕訳のため両方とも「✓」を記入します。
- 26日 仕入帳の諸口欄に記入し、支払手形勘定に個別転記するため「16」と記入します。
- 27日 売上帳と現金出納帳の諸口欄に記入されますが二重仕訳のため両方とも「✓」を記入します。

●参考●

現金出納帳

日付	摘要	元丁	売掛金	諸口	日付	摘要	元丁	買掛金	諸口
9 10	受取手数料	(27)		1,600	9 5	通 信 費	(35)		600
20	山口商会	(√/得1)	5,200		11	秋田物産	(√/仕1)	2,400	
27	売 上	(√)		5,000	25	仕 入	(√)		1,600
30	売 掛 金	(3)	5,200	5,200	30	買 掛 金	(17)	2,400	2,400
〃	現 金	(1)		11,800	〃	現 金	(1)		4,600
〃	前月繰越	√		600	〃	次月繰越	√		7,800
				12,400					12,400

仕入帳

日付	摘要	元丁	買掛金	諸口
9 4	秋田物産	(√/仕1)	2,000	
7	秋田物産	(√/仕1)	△ 200	
25	現 金	(√)		1,600
26	支払手形	(16)		1,800
30	買 掛 金	(17)	2,000	2,000
〃	当月総仕入高	(28)		5,400
〃	当月値引返品高	(17/28)		△ 200
〃	当月純仕入高	√		5,200

売上帳

日付	摘要	元丁	売掛金	諸口
9 6	受取手形	(2)		3,000
8	山口商会	(√/得1)	4,000	
15	山口商会	(√/得1)	△ 600	
27	現 金	(√)		5,000
30	売 掛 金	(3)	4,000	4,000
〃	当月総売上高	(26)		12,000
〃	当月値引返品高	(3/26)		△ 600
〃	当月純売上高	√		11,400

豆テスト #11 問題

(P.220～P.229)

問題

下記に示す平成○年6月2日の取引伝票を参考にして、この日の(1)仕訳日計表を完成させ、そこから(2)総勘定元帳の仕入勘定、(3)売掛金元帳のA得意先の記入をそれぞれ示しなさい。

入金伝票 No.101 受取手数料 750	出金伝票 No.201 買掛金(甲社) 6,500	振替伝票 No.301 受取手形 7,000 売掛金(C社) 7,000
入金伝票 No.102 売掛金(A社) 5,000	出金伝票 No.202 買掛金(乙社) 9,750	振替伝票 No.302 買掛金(甲社) 4,250 支払手形 4,250
入金伝票 No.103 受取手形 12,750	出金伝票 No.203 営業費 4,250	振替伝票 No.303 備品 12,500 未払金 12,500
入金伝票 No.104 売掛金(B社) 10,500	出金伝票 No.204 借入金 8,000	振替伝票 No.304 修繕費 2,000 未払金 2,000
仕入伝票 No.401 買掛金(甲社) 13,000	売上伝票 No.501 売掛金(A社) 5,000	
仕入伝票 No.402 買掛金(乙社) 9,750	売上伝票 No.502 売掛金(B社) 10,500	
仕入伝票 No.403 買掛金(丙社) 10,000	売上伝票 No.503 売掛金(C社) 15,500	
仕入伝票 No.404 買掛金(丙社) 2,500 戻し	売上伝票 No.504 売掛金(C社) 500 値引き	

豆テスト #11 解答用紙

(1)仕訳日計表

仕 訳 日 計 表				
平成○年6月2日			No. 1	
借 方	元丁	勘 定 科 目	元丁	貸 方
		現 金		
		受 取 手 形		
		売 掛 金		
		備 品		
		支 払 手 形		
		買 掛 金		
		未 払 金		
		借 入 金		
		売 上		
		受 取 手 数 料		
		仕 入		
		営 業 費		
		修 繕 費		
		計		

(2)総勘定元帳

仕 入						
No.31						
日付	摘 要	仕丁	借 方	貸 方	借/貸	残 高

(3)売掛金元帳

A 得意先						
No. 7						
日付	摘 要	仕丁	借 方	貸 方	借/貸	残 高
6 1	前 期 繰 越	√	44,000		借	44,000

豆テスト #11 解答・解説

(1)仕訳日計表

仕 訳 日 計 表

平成〇年6月2日

No. 1

借 方	元丁	勘 定 科 目	元丁	貸 方
29,000		現 金		28,500
7,000		受 取 手 形		12,750
31,000		売 掛 金		23,000
12,500		備 品		
		支 払 手 形		4,250
23,000		買 掛 金		32,750
		未 払 金		14,500
8,000		借 入 金		
500		売 上		31,000
		受 取 手 数 料		750
32,750	31	仕 入	31	2,500
4,250		営 業 費		
2,000		修 繕 費		
150,000		計		150,000

(2)総勘定元帳

仕 入

No.31

日付	摘 要	仕丁	借 方	貸 方	借/貸	残 高
6 2	仕 訳 日 計 表	1	32,750		借	32,750
〃	仕 訳 日 計 表	1		2,500	〃	30,250

(3)売掛金元帳

A得意先

No. 7

日付	摘 要	仕丁	借 方	貸 方	借/貸	残 高
6 1	前 期 繰 越	√	44,000		借	44,000
2	売 上 伝 票	501	5,000		〃	49,000
〃	入 金 伝 票	102		5,000	〃	44,000

解説

1 入金伝票

(現 金)	29,000	(受 取 手 数 料)	750
		(売 掛 金 ①)	5,000
		(受 取 手 形)	12,750
		(売 掛 金 ②)	10,500

売掛金元帳のためのメモ用です。

2 出金伝票

(買 掛 金 ①)	6,500	(現 金)	28,500
(買 掛 金 ②)	9,750		
(営 業 費)	4,250		
(借 入 金)	8,000		

本問では必要ないですが
買掛金元帳用のメモと考
えて下さい。

3 振替伝票

(受 取 手 形)	7,000	(売 掛 金 ㉔)	7,000
(買 掛 金 ㉕)	4,250	(支 払 手 形)	4,250
(備 品)	12,500	(未 払 金)	12,500
(修 繕 費)	2,000	(未 払 金)	2,000

4 仕入伝票

(仕 入)	32,750	(買 掛 金 ㉕)	13,000
		(買 掛 金 ㉖)	9,750
		(買 掛 金 ㉗)	10,000
(買 掛 金 ㉘)	2,500	(仕 入)	2,500

5 売上伝票

(売 掛 金 ㉙)	5,000	(売 上)	31,000
(売 掛 金 ㉚)	10,500		
(売 掛 金 ㉛)	15,500		
(売 上)	500	(売 掛 金 ㉛)	500
	<u>150,000</u>		<u>150,000</u>

↑ 仕訳日計表計 ↑

豆テスト #12 問題

(P.230～P.254)

問題 下記に示す資料1～3を参考にして当期末における本支店の合併損益計算書と合併貸借対照表を作成しなさい。なお決算は年1回、3月31日とする。

(資料1)

残 高 試 算 表										
平成 04 年 3 月 31 日										
借 方				本 店	支 店	貸 方		本 店	支 店	
現 金 預 金				10,760	2,015	支 払 手 形		12,500	7,725	
受 取 手 形				16,240	3,010	買 掛 金		6,000	1,250	
売 掛 金				9,750	8,750	借 入 金		5,000	2,500	
繰 越 商 品				29,250	16,250	建物減価償却累計額		6,250	2,500	
建 物				12,500	6,250	備品減価償却累計額		1,500	750	
備 品				2,500	1,750	資 本 金		50,000	－	
支 店				24,250	－	別 途 積 立 金		6,000	－	
仕 入				143,750	19,750	本 店		－	19,675	
本 店 よ り 仕 入				－	52,250	売 上		118,750	82,500	
支 払 家 賃				7,625	5,625	支 店 向 売 上		55,000	－	
保 險 料				1,750	－	受 取 手 数 料		1,500	600	
広 告 宣 伝 費				3,000	－					
支 払 利 息				1,125	1,850					
				262,500	117,500			262,500	117,500	

- (資料2) 未達事項は以下の通りである。
- 1. 本店が発送した商品2,750円が支店に未達。
 - 2. 支店が送金した1,875円が本店に未達。
 - 3. 本店で支払った支店の保険料750円の通知が支店に未達。
 - 4. 本店で支払った支店の広告宣伝費625円の通知が支店に未達。
 - 5. 支店で回収した本店の売掛金1,250円についての通知が本店に未達。
 - 6. 本店で受け取った支店の受取手数料175円についての通知が支店に未達。

(資料3) 決算整理事項

- 1. 期末商品棚卸高
本店：21,750円
支店：13,125円（うち9,625円は本店よりの仕入分である）。
 - (1) 本店から支店への売上には原価に10%の利益が付加されている。
 - (2) 支店の期首商品棚卸高には本店からの仕入分は含まれていない。
 - (3) 支店の期末商品卸売高には未達分は含まれていない。
- 2. 本店および支店ともに、売上債権に対して5%の貸倒引当金を設定する。
- 3. 本店および支店ともに、残存価額10%として定率法により、建物については10%、備品については20%の減価償却を行う。
- 4. 支払家賃の未払額が本店に375円、支店に500円それぞれある。

豆テスト #12 解答用紙

損益計算書

平成03年4月1日～平成04年3月31日

費用	金額	収益	金額
期首商品棚卸高	()	売上高	()
当期商品仕入高	()	期末商品棚卸高	()
減価償却費	()	受取手数料	()
貸倒引当金繰入	()		
支払家賃	()		
保険料	()		
広告宣伝費	()		
支払利息	()		
当期純利益	()		()
	()		()

貸借対照表

平成04年3月31日

資産	金額	負債・純資産	金額
現金預金	()	支払手形	()
受取手形	()	買掛金	()
売掛金	()	借入金	()
貸倒引当金	() ()	未払家賃	()
商品	()	資本金	()
建物	()	別途積立金	()
減価償却累計額	() ()	当期純利益	()
備品	()		
減価償却累計額	() ()		
	()		()

豆テスト #12 解答・解説

解答

損益計算書

平成03年4月1日～平成04年3月31日

費 用	金 額	収 益	金 額
期首商品棚卸高	(45,500)	売 上 高	(201,250)
当期商品仕入高	(163,500)	期末商品棚卸高	(36,500)
減 価 償 却 費	(1,400)	受 取 手 数 料	(2,275)
貸倒引当金繰入	(1,825)		
支 払 家 賃	(14,125)		
保 険 料	(2,500)		
広 告 宣 伝 費	(3,625)		
支 払 利 息	(2,975)		
当 期 純 利 益	(4,575)		
	(240,025)		(240,025)

貸借対照表

平成04年3月31日

資 産	金 額	負債・純資産	金 額
現 金 預 金	(14,650)	支 払 手 形	(20,225)
受 取 手 形	(19,250)	買 掛 金	(7,250)
売 掛 金	(17,250)	借 入 金	(7,500)
貸 倒 引 当 金	(1,825) (34,675)	未 払 家 賃	(875)
商 品	(36,500)	資 本 金	(50,000)
建 物	(18,750)	別 途 積 立 金	(6,000)
減価償却累計額	(9,750) (9,000)	当 期 純 利 益	(4,575)
備 品	(4,250)		
減価償却累計額	(2,650) (1,600)		
	(96,425)		(96,425)

解説

1. 未達取引

(1) 支店側：(本店より仕入)	2,750	(本店)	2,750
(2) 本店側：(現金預金)	1,875	(支店)	1,875
(3) 支店側：(保険料)	750	(本店)	750
(4) 支店側：(広告宣伝費)	625	(本店)	625
(5) 本店側：(支店)	1,250	(売掛金)	1,250
(6) 支店側：(本店)	175	(受取手数料)	175

(参考)

本店側	支店	支店側	本店
T / B	24,250	(6)	175
(5)	1,250	T / B	19,675
		(1)	2,750
		(3)	750
		(4)	625
	残高 23,625	残 23,625	

2. 決算整理事項

(1) 商品棚卸高

期首商品：29,250円 + 16,250円 = 45,500円

期末商品：21,750円 + 13,125円 + 2,750円 - 1,125円* = 36,500円

※内部利益

$$(9,625円 + 2,750円) \times \frac{\text{未達取引 } 0.1}{1.1} = 1,125円$$

(2) 貸倒引当金繰入

$$\left. \begin{array}{l} \text{本店側：} (16,240円 + 9,750円 - 1,250円) \times 5\% = 1,237円 \\ \text{支店側：} (3,010円 + 8,750円) \times 5\% = 588円 \end{array} \right\} 1,825円$$

(3) 減価償却費

①建物

本店側：(12,500円 - 6,250円) × 10% = 625円

支店側：(6,250円 - 2,500円) × 10% = 375円

②備品

本店側：(2,500円 - 1,500円) × 20% = 200円

支店側：(1,750円 - 750円) × 20% = 200円

(4) 経過勘定項目

支払家賃 7,625円 + 5,625円 + 375円 + 500円 = 14,125円

(5) その他

$$\begin{array}{l} \text{現金預金：} 10,760円 + 2,015円 + 1,875円 = 14,650円 \\ \text{売掛金：} 9,750円 + 8,750円 - 1,250円 = 17,250円 \\ \text{保険料：} 1,750円 + 750円 = 2,500円 \\ \text{広告宣伝費：} 3,000円 + 625円 = 3,625円 \\ \text{受取手数料：} 1,500円 + 600円 + 175円 = 2,275円 \end{array}$$